

【 第3回デフワールドカップを振り返ってⅠ 】

イタリア大会ではたくさんの応援メッセージを頂き、空港での出発セレモニーにはJFAより松田様、中原様をはじめたくさんの方々がお越しくださりお見送り、また現地まで応援来てくださった方もいらっしゃいましたことお礼申し上げます。

メディアでの露出はパラリンピック競技と比べましてまだまだ少ないですが応援して下さる方々はすごく増えていっていると実感しております。

ちなみにパラリンピックについて知っているのは94.1%、デフリンピック2.8%、スペシャルオリンピックス12%です。しかし手話という言葉は認知度が高く97.7%もの方々が知っています。

この数字を活かして手話とデフリンピックと一緒に一般社会に広がっていければと思っています。

初戦と最終戦の試合前の自分自身の心の状態は大きく違っておりました。

この心の違いがなぜ生まれたか原因を次につなげていくために振り返りながら確認していきたいと思います。

大会前に羽田からミュンヘンを経由しナポリではなくローマに夜遅く到着し次の日にイタリアと日本が国交150周年ということもありローマ日本人学校を訪問させて頂きました。

選手の時間や費用の負担が増えますが、デフリンピックを一人でも多くの方に知ってもらい知名度を上げていくことと、こういった活動を続けていくことによって選手とスタッフ自身が成長させてもらえることがすごくいい経験になっております。

自分自身イタリアには20年ぶり2回目の訪問となり、あれからもう20年たっているのかと時代の流れの速さに驚きました。ローマ滞在時にはカルチョファンタスティコの吉田氏、濱澤氏がサポートしてくださいました。吉田氏は兵庫県宝塚出身でサッカー関係の共通の知り合いがおり、日本人学校の校長先生も兵庫県丹波出身で縁をすごく感じました。

講義の資料は「細見主将」と「浜津広報部長」が作成してくださり子供たちにわかりやすく楽しい内容になっておりましたし、実技ではピッチ準備で「深川友貴」さんが絶妙のサポートを行ってくださりかなり盛り上がりました。

コートの大さは、子供たちの年齢や人数によって作りますが1m違うだけでも大きく変わってしまいますので、コート準備は簡単そうで難しいところもございませう。

なにより代表選手達が繰り返しキッズフェスを経験することにより成長していたことが、子供たちが楽しく盛り上がった大きな要因となっていました。

滞在中空いている時間は他国の代表チームの練習や試合をみて学んだり盗んだりするのですがトルコ代表の練習を見た時、2年前にイラン代表をみたとき以上の衝撃があったと同時に、聴覚障がいがあってもここまでサッカーができるんだと感動し嬉しい気持ちにもなり1時間以上夢中になり時間を忘れて練習を最初から終わりまでみていました。

夢中になれることはサッカー選手やコーチにとっても大切な能力で、夢中になれる力が強ければ強いほど深く練習や試合に没頭することができます。

それだけで頭がいっぱいになり、やっている間は没頭していて、しかも興奮して面白くて、ずっとそれをやり続けたいと思うようになるからです。

何か一つでも夢中になれるものに出会えることは幸せなことだなと感じました。

予選リーグの初戦を落とすと予選突破の可能性は何パーセントしか無いと、よく見かけますが今大会準優勝のドイツは開幕戦でイタリアに敗戦しておりますので特に気にすることは無いですし、予選リーグでは初戦のアメリカ戦(0-1)に敗れはしましたが、次のロシア戦(2-3)に切替えることができ3年前に完敗した相手と互角の戦いを行うことができました。

結果が全てと言われることも多々ありますが、負け惜しみでもなんでもなく真剣勝負を繰り返すことで選手とチームも大きく成長したことが大きな収穫ではないでしょうか。

今まで人生の中で相手を殺してでも何をしてでも勝つ、勝たなければならないと思ったのは今年の台湾で行われたデフリンピックの予選の時ほど強く思ったことはありませんでした。

日本ろう者サッカー協会の鈴木会長、小林副会長、高橋顧問他みなさまのデフサッカーに対する情熱、デフリンピックにかける思いを背負いアジアで2位以内に入り出場権を獲得することのみ考えて戦いました。

今回のイタリア大会の目標は？とよく聞かれましたが、メダル獲得や前回大会以上の成績を残すなどと答えていましたが、他国は国を背負ってきています。相手の国のレベルはわからないから、情報がないからなどと言いつきは考えておりません。

試合が始まると相手を分析しウクライナは相手のエースを迷いなく削りに行き、イランはビザが下りずに空港で何時間も足止めされホテルに夜中に着いて次の日の朝10時キックオフにも文句ひとつ言わずに試合の準備をし、イラクは格上の対戦相手にも臆することなく粘り強く守りカウンターを狙い時間を有効に使い、勝つためだけに、ただ目の前の敵を倒す為にいま自分に何ができるのかを考え試合に挑んでくるのです。

毎晩ミーティングでいろんな話をした中でのひとつは失敗を指摘しましたが、そのミスを責めるのではなくなぜそのミスが起きたかの原因と繰り返さない為に試合映像を使い伝えました。

サッカーは足でボールを使用しますのでミスを多くするスポーツですし、切り替え次頑張れでいいのですが同じ失敗を繰り返さないことが大切です。

イタリアのグラウンドは芝の下が粘土質で開幕戦は何日か前の雨でぬかるんでおり滑る状態でした。

このような状態のグラウンドでの試合経験が少ないのであれば雨の中や翌日にそういった場所を探し自分で工夫し対策を行うこともできるではないでしょうか。

自分自身で考え実行することが今後大切になっていきます。

